

写真1　本堂

近隣史跡の紹介

心法寺（しんぽうじ）は、徳川家康とともに江戸へ来た三河国の秦宝寺（しんぽうじ）の然翁聖山上人が、麹町の地に慶長2年（1597年）に起立した由緒あるお寺です。千代田区内では、一番古くまた墓地を所有するお寺でもあります。

本尊の木造阿弥陀如来坐像は、行基の作と伝えられています。お彼岸とお盆には、本堂（写真1）の正面が開かれ、本尊を拝観できます。

本堂の横には、延宝4年(1676年)に神田の鋳物師、椎名伊豫藤原吉寛により鋳造された、銅製梵鐘（写真2）が置かれています。鐘名には、多くの人名が線刻され、町人たちの喜捨への思いがうかがえます。

また、本堂手前の地蔵堂には、二体の塩地蔵尊が祀られています。地蔵尊のお体に塩をぬってお参りをすると、治癒のご利益があり、完治した参拝者は、塩を納める御礼参りをするそうです。

参考文献
心法寺資料
千代田区教育委員会資料



写真2　銅製梵鐘

